

情報

加瀬豊司さん(10D)フルブライト同窓会で講演

去る5月23日、愛知大学車道校舎にて、フルブライト中部同窓会総会が開かれた。その会合で、附中同窓生である加瀬豊司(10D)さんが講演された。加瀬さんは、愛知教育大学を卒業後、昭和41〜42年度(19〜22回生)の間、附中で英語を教えられた。さらに愛知県県立高校の英語教諭を8年間され、フルブライト大学院奨学生に合格。ワシントン州立大学院で修士課程を修了された。その後、州立メリランド大学院で博士課程修了及び博士号を取得し、その博士論文を基に「Nisei Samurai in Washington, D.C. 『文化変容と人間行動』学術出版会」を出版。そして2008年まで四国学院大学教授・同大学院研究科長として「異文化間

コミュニケーション」分野を中心に教えられるとともに、長い間大学全体の国際交流委員長も務められ、定年退職後は同大学の名誉教授をされている。また、趣味のテニスでは、数々の地域トーナメントでトロフィーを勝ち取る程の実力も備えており、正に文武両道と言える方だ。

今回、「アメリカの大学院教育」というテーマで語られた、約1時間に及ぶ講演では、ご自身の留学時代の成績評価・授業評価や苦労話、専門領域から論述技術に至るまで、幅広くユーモアたっぷりに熱弁をふるわれた。特に、英語論理の典型であるパラグラフの拘束性に関する省察は、個人的にも興味深く聞くことが出来た。(講演内容は<http://leachirunajp/hoshino/Fulbright.html>)

附中の同窓生の中には、おそらく他にもフルブライト・プログラムに参加された方がいることだろう。この機会に、附中・フルブライト同窓会を行ってみたい。

※引き続き、加瀬さんからフルブライトの今と昔について寄稿いただいた。

安富健(55D)

アメリカ留学奨学金制度 —フルブライト・ プログラム今昔

現在私達は価値観が多様化した社会で、生活しています。これは自分のライフスタイルを選択しなければならぬパワーの

フルブライト同窓会で講演する加瀬さん



いる世界でもあります。この選択力を海外に向けた場合、国際社会で自分自身の可能性を十二分に発揮できる留学制度があります。

第二次世界大戦終了直後、米国の一地方のフルブライト上院議員は、「戦争防止には人物交流が最良」と確信し、戦時の余剰資産のすべてを奨学金にしました。交流計画を米国議会に提案。

その翌年、フルブライト交流制度が実現しました。発足から今日までに、日本からのフルブライト留学生総数は約70000人、現在、毎年50〜60人の米国立学(米国立日本留学)もほぼ同数が続いています。1979年以降は日本政府の拠出金も加わり、また現在は民間資金寄付も受けた国際交流機関に成長しています。

博士号(PhD)取得後に表敬訪問したアーカンソー大学(かつて学長はフルブライト氏)のフルブライト研究所でこんな理念の主張を見つけた。「自由な探求心(Free and inquiring mind)を涵養し…人間性(Humanity)を人と

人との関係、国と国との関係の中にもたらず」。偏見のない発想・思考から出発し、探究していく頭を使って、人や国の関係を構築していくことが世界平和の基礎。現在フルブライト・プログラムは155か国参加の教育・研究の世界最大規模になっていますが、基本理念の「何かをやり遂げる探究心」は附中生のスピリットと大いに響き合うものを感じます。フルブライト同窓会も附中同窓会と同様、意気盛んな集まりです。

日米のフルブライト同窓生の各界での活躍を分類すると、5名のノーベル賞受賞者、2名のピューリッツァー賞受賞者、57人の大使経験者がいます。政経界・法曹・医療・芸術・企業界のトップはもとより、大学教授に至っては最多の4500人以上です(フルブライト・ジャパン事務局調)。私もフルブライトの全額支給大学院プログラムがきっかけとなった、この最後の分類の一人です。

現在フルブライト奨学金制度は学者、研究者、教育者、大学院生、各種専門家等を対象に、幅広いプログラムやプロジェクトを提供しています。(詳細は<http://fulbright.jp>)フルブライト体験は、国際社会において、しがらみのないスピリット

トを持って貢献できるグローバル・リーダーシップ養成の世界です。私自身、何よりもアメリカ留学で進取の精神が身に付いたと思っています。It's worth challenging!

加瀬豊司(10D)